

日本語版ウィキペディアの端緒 と変遷

Tomos

Wikimedia Conference Japan 2009

「黎明期の日本語版ウィキペディア」
セッション発表資料

焦点

- ・こんな巨大なプロジェクトはどうやって始まるのか？
- ・「昔はよかった」のか？

そもそものはじまり

- Nupediaという査読ベースのフリーな百科事典は人が集まらず停滞していた
- 実験的にウィキを使ってみたところ盛り上がったので、ウィキペディアになった

感想：失敗は成功の母

ウィキペディアの実験的な精神も価値がある

日本語版初期 空白の1年半

- ・2001年5月頃に設置
- ・2003年1月に参加者が突然増える。きっかけはWiredでの報道。

以後、閑散とすることはなかった。スラッシュドット、検索エンジン、報道などをきっかけに人が増えていった。

1年経ってあきらめていたら、今日の日本語版ウィキペディアはない。

人を呼び込むボランティアの努力はAoinekoさんなどがしていたが、それではにぎわうことはなかった。

感想：コミュニティ・サイトが無名の状態から立ち上がるまでの軌道は、予測が難しい。

変わっていないこと

- 著作権の扱いに非常に慎重・真剣なこと
- 中立性を重んじること
- 合意を重んじること
- 管理者は偉くないこと(でも初心者や部外者には誤解されること)
- 結局人が足りているわけではないこと
- 野心的でフリーなプロジェクトであること
- 「思っていたよりずっとうまく行った」こと

変わったこと：有名税の負担

- 投稿量は増えた
- クオリティを確保する人の割合は減った
- 初心者の扱いは軽く(貴重でなくなった)
- 即時削除の割合も高く(手間をかけて育てられる量でもない)
- 志に共感する人の割合はたぶん減った
- 情報操作・宣伝に熱心な人の割合は増えた
- 悪質な荒らしも増えた？(割合としては一定？)
- ジミー・ウェールズが言うような「コア・コミュニティ」と「その他の参加者」の図式が形成されることにもなった

変わったこと：間接情報の役割

間接的な情報の役割

- ・「自分の信頼している人がこう言っている」
→紛争処理や信任・解任などの場面で重要に。
(直接やりとりをしていない人の言動について判断する必要が増すため)
- ※誰が誰を信頼しているのか、可視化・数値化できないものか？ (うまく行かないと聞いた)

変わったこと:オープンさ

オープンであることの価値は減って(負担が増えて)きている。(前頁)

人手が足りず、規模が大きい分、ルールやガイドラインによって効率性や一貫性を追求することに

感想:多様性と規模の拡大と共に形式化・合理化が進む「都市化」や「近代化」と似ている。

(よくも悪くも、前近代的なムラ社会は消える。)

※ユーザビリティ調査などによって変わるかも?

※ウィキペディアが人気を失うとこの割合はどうなるのか?

変わったこと：組織・制度

- ・財団法人ができた(それ以前はジミー・ウェールズの資金や会社のサーバーに依存)
 - ・理事会もできた
 - ・投票のフロー
 - ・秀逸な記事の選考・再選考
 - ・管理者の信任・解任
 - ・特定版削除の確認フロー
- ※ルールだけでなく、テンプレートの整備なども進んだ
- ※ブロックの方針、裁定委員会のように難航案件もあるが。。

初期は平和だった？

- 互いの監視の目は行き届きやすい
 - 無名なプロジェクトだけど志が高いところに賛同する、という人の割合が多い
 - ウィキペディアを荒らしても面白いことは何もない
 - ウィキペディアで誰かを誹謗しても、自分の会社を宣伝しても特にならない
 - 即時削除、ブロック依頼などがなくても一応大丈夫（落書きは白紙化で、荒らしは対話で対処）
- ※志の高さ以外にとりえがないプロジェクトだったので、すごしやすいコミュニティだったのかも。

変わったこと: 百科事典としての路線

- ・百科事典としての路線がはっきりし、以下のような「ウィキペディアは何でないか」が決まってきた。

時事・ニュースは熱が冷めてから

サブカル記事は少数にまとめる

人や企業も著名性で限定

出典のない情報はお断り

感想: 比較的眞面目で保守的なビジョンになった。

変わったこと: 荒らし等への対抗手段

- ルールやガイドライン(ブロック、保護などの方針)
- システム上の対応手段(保護、半保護、移動からの保護、その他)
- CUが可能に
- 特定版の復帰が可能に(導入以前は、最新版の著作権侵害を理由に記事全体を削除したことも。。)
- 投稿記録の利便性も増加
(投稿記録から差分がとれない時代があり、各ページの履歴と照らし合わせて活動を追う作業が大変だった)

質の確保とパワーバランス

- A. ウィキペディアにとって望まれない投稿や投稿者は増える
 - B. 対応する人も、割合としては減るが、数は増える
 - C. ツールは便利になる
 - D. 対応の丁寧さをあきらめて、効率的に処理することにする
- コンテンツの質の確保にとって、A.の増加ペースにB.C.D.が追いつけるかどうか重要。
- ※特にしつこく、悪質な荒らしや、バイアスをかけるための投稿は、発見や対処に人手がかかるが、これは有名になるにつれて増加する。

変わったこと: 記事の質・幅

時間はかかるし、誤差はあるが、長期的にはよいものになっている。カバーする範囲も広がっている。

※今後も改善が続くのかは、楽観はしていない。

※専門家との協力体制ができるといいような気がずっとしている。(知名度を有効活用する手段) NIHと財団の連携は好例

まとめのようなもの

- 何もないところから始めて随分大きく、複雑になった
- 予想外のタイミングで動き出した
- 自治の仕組みも、そのためのツールも発達した
- 望まれない投稿は増えた
- 初期コミュニティはよかったけど、そこへ戻ろうとしてもたぶん無駄
- 将来どうなっていくかは、明白ではないように思える

ライセンスに関する情報(license information)

この発表資料を3種類のライセンスで提供し、利用者が選べるようにするために、利用許諾に関する注意書きを以下に記します。(In order to provide this presentation material under three kinds of licenses and give users choices, I put the following license notices.)

- ・ この発表資料は、CC-BY 2.1 JP (<http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/>)でライセンスされています。
- ・ This Work is licensed under CC-BY 3.0 US (<http://creativecommons.org/licenses/by/3.0/us/>)
- ・ This Work is licensed under CC-BY -SA 3.0 US (<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/us/>)

参考までに、本作品に係る著作権表示はなく、許諾者が本作品に添付するよう指定したURIもありません。本作品のタイトルは「日本語版ウィキペディアの端緒と変遷」で、原作者は Tomos です。For your information, there is no copyright notice for this Work, and no URI that the Licensor specifies as associated with the Work. Title of the Work is 日本語版ウィキペディアの端緒と変遷 and the name of the Original Author is Tomos.